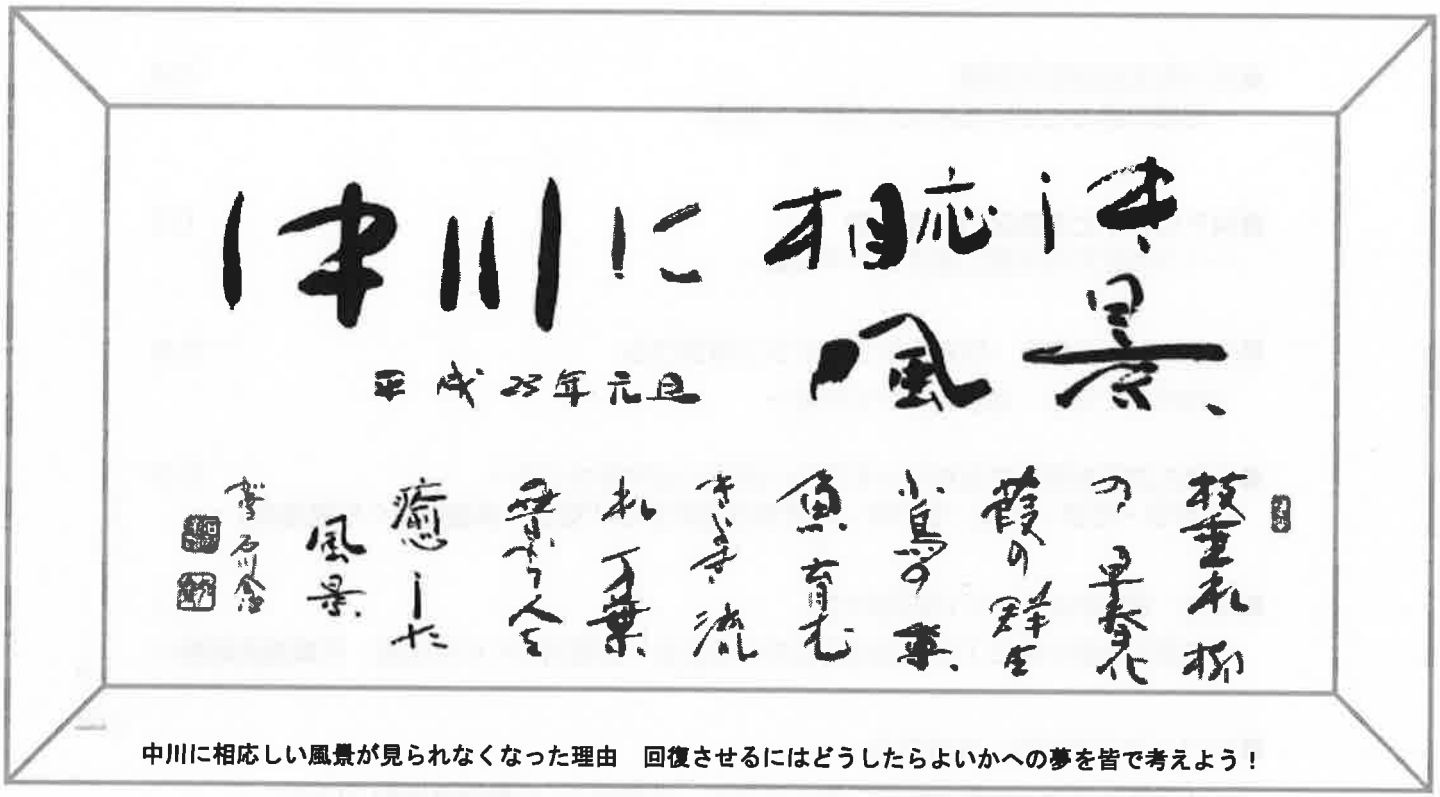
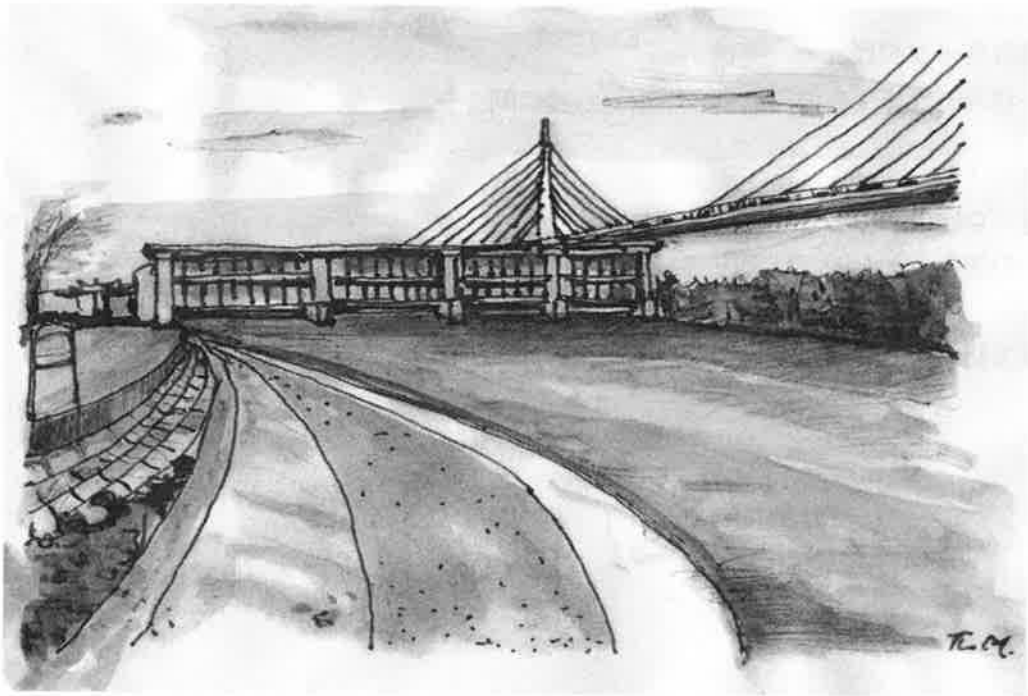
ア！安全・快適街づくりニュース

2010年活動記録　　2011年6月　vol.17



中川に相応しい風景が見られなくなった理由　回復させるにはどうしたらよいかへの夢を皆で考えよう！



・・・2010年度活動記録・目次・・・

■H22（2010）年度総会　01
—地元町会の方３名が理事に選任されました—

■これまでの協働活動概要紹介　02

■新小岩北地区防災訓練　04
—地域の底力と世代を超えた活動への期待—

■NPOア！と葛飾区の協働事業　07
—１３地区での水害に関するパネル展—

■水害に備える安全・快適まちづくりシンポジウム　08
—地域力で浸水・耐水まちづくりを—

■地域の課題を解決する新しいモデル～新しい公共をさぐる～　09
—NPO・行政・地域・専門家・研究者が協働する「安全・快適街づくり勉強会」—

■連携・協働のまちづくりに向けて　10
—葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会　作業部会報告—

■2010年度勉強会・作業部会　12
—「葛飾区西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会活動フロー」—

■３町会長インタビュー　13
—鈴木町会長・赤穂町会長・中川町会長に聞く—

■第８・９回ワークショップ結果報告　16
—中学生とともに，防災意識と備えの持続性を考える—

■編集後記

22（２０１０）年度総会盛況裡に終了

―活動方針等を巡り活発な討議―

―地元町会の方３名が理事に選任されました―

事務局長　宇賀俊夫

2010 年度の定時総会は５月 20 日、14 時から大成化工株式会社厚生棟で、地元の皆さんも大勢参加して開催されました。

開会に先立ち、国土交通省、都市・地域安全課　企画専門官の高橋友昭様より「震災に強いまちづくり（安全・安心まちづくり）」と題する講演がありました。

国土交通省・社会資本整備審議会「安全・安心まちづくり小委員会」の中間とりまとめ(2009）を紹介するもので、自然災害のリスクが高まり、人口減少の進展を踏まえたうえで、安全・安心のまちづくりを進めるための政策提言を行おうとするものです。中間とりまとめでは通り組むべき政策として（1）まちづくりに向けたリスク情報の充実と周知化、（２）リスク情報の活用による防災上危険が高い場所の摘出とそれを克服した都市の将来像の検討、（３）将来像を踏まえた都市構造を実現するべく街づくりを誘導、（４）企業・住民など地域での共助の取り組み推進と地域力による安全性の向上を図ることが挙げられています。今後も検討を重ね、具体的提言を行うとのことです。

総会では議事に入る前に、石川理事長から今年度一番やりたいと考えている活動として、「葛飾区新小岩西３丁目周辺地域をモデルにした安全・快適街づくり勉強会」の立ち上げについて説明がありました。

この勉強会を行うことにしたのは「地域主権」主義の高まりに先行して宣言された「地域の問題は地域で決め、地域で実施しよう」という新小岩宣言を実行に移す一歩にもなり、かつまた、「新しい公共」という概念の台頭に際し、地元の役割は何かを考えることにもなるからです。勉強会の課題はこの地域が水害に弱いことを認識し、原因は揚水による地盤沈下がもたらしたこと、水害に強い街とは何かを考えることです。

その後、議案の審議に入り、「21 年度事業報告」と「21 年度決算」、「22 年度事業計画」と「22 年度収支予算」、「役員の選任」についての説明があり、質疑の上承認されました。もちろん例年通り、来場の皆さんとの間に活発な質疑応答が行われました。

特筆すべきことは今年度新たに地元町会の方３名が理事に選任されたことです。これも当 NPO の活動が地元にも十分理解され、受け入れてられてきた証しといえましょう。

2010 年度は葛飾区との協働で、当 NPO も上記勉強会の事務局となり、地元・行政・研究者などの専門家の参加を得て、2010 年度中に４回の勉強会、７回の作業部会を開催しました。また、これまでの地元での活動を総括し、更に発展させるためのシンポジウムの開催（6 月）、葛飾区との協働事業による防災意識向上のためのパネル展示とハザードマップ普及のための小冊子配布とアンケートの実施（8～12 月）、国際交流（1 月）、ゼロメートル研究会の受託した助成金によるワークショップの開催（2, 3 月）など多くの事業が実施されました。引き続き当 NPO の活動にご期待ください。

以下に２０１０のさまざまな活動寄稿を掲載します。報告としてご覧ください。

NPO ア！安全・快適街づくり ＋ 広域ゼロメートル市街地研究会 1/2

東京，大阪，名古屋には地下水の過剰な汲み上げに伴う地盤沈下によって水面下となった高密，広域の市街地（「広域ゼロメートル市街地」）が存在します．ハリケーン・カトリーナによって水没したニューオリンズのように，広域ゼロメートル市街地で大規模水害が発生した場合，甚大な被害が生じることが予想されます．また，気候変動に関する政府間パネル（2007 年）によると，将来の海面上昇，台風の大型化，極端な気象現象の増加が予測されています．今後，徐々に増加する水害リスクに対し，広域ゼロメートル市街地では何らかの対策を講じる必要があります．

新小岩北地区では，NPO ア！安全・快適街づくり，新小岩北地区連合町会，専門家（広域ゼロメートル市街地研究会）の三者が一体となり，広域ゼロメートル市街地における大規模水害への備え方を検討するため，様々な取り組みを行ってきました．

東京の広域ゼロメートル市街地

荒川浸水想定区域図によれば，概ね 200 年に 1 回程度起こる大雨で荒川が氾濫した場合，足立区，葛飾区，江戸川区，墨田区，江東区は，ほぼ全域が浸水するとされています．この地域には，約 200 万人が居住しています．

このなかでも，葛飾区，江戸川区，墨田区，江東区の荒川沿川地域では，干潮面よりも低い地域がみられます．干潮面以下の地域，満潮面以下の地域，高潮の危険に晒されている地域は，それぞれ 31 k㎡，124 k㎡，255 k㎡にもおよびます．

※A.P.：干潮時の荒川河口付近における海水面を基準とした標高

洪水ハザードマップと避難

近年相次ぐ水害を受けて，2001 年，2005 年に水防法が改正され，自治体は，浸水想定区域や避難場所を明記した洪水ハザードマップを作成・公開することが義務づけられています．

しかし，葛飾区荒川洪水ハザードマップを見ると，区内では避難場所を確保することができないため，沿川の大半の地域では，松戸市や市川市まで避難せざるを得ない状況です．荒川が氾濫した場合，葛飾区では 44 万人のうち，28 万人が避難するとされ，大移動が見込まれていますが，はたして実際に避難することができるのか，乗り越えなければならない課題は山積しています．

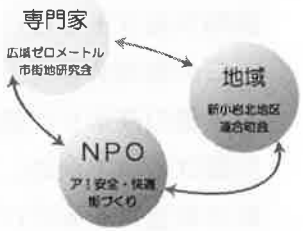
このハザードマップは，荒川流域で３日間に総雨量 548mm の大雨（200 年に 1 回程度発生する規模）により，荒川下流域の堤防が決壊した想定で作成した「浸水想定区域図」をもとに作成したものです．

安全で快適なまちをめざして

広域ゼロメートル市街地に位置する新小岩地域では，水害への備えを進めていくことが必要です．水や食料を準備しておくこと，洪水ハザードマップをはじめとする地域の防災体制を確認しておくこと，要援護者をすぐに救援できるように事前に所在を把握しておくことなど，短期的に自分や地域で行える対策があります．

そして，短期的な対策だけでなく，長期的な展望にたって，水害に強い市街地を構築していくという考え方も重要です．例えば，大規模公園を高台化して，水害発生時に避難拠点として利用できるようにするということが考えられます．

長期的に市街地のあり方を考える際には，水を「水害」という負の側面だけで見るのではなく，水のもつ「恵み」にも注目して，まちづくりを進めていくことも大切です．新小岩北地区では，NPO，地域の連合町会，専門家が，水害から街を守ると同時に，川を生かした，安全で快適なまちの実現をめざしています．



NPO ア！安全・快適街づくり ＋ 広域ゼロメートル市街地研究会 2/2

これまでの取り組み

Ⅰ期：リスク認識の適正化と課題の枠組みの意識化

テーマ「水害に対して皆さんで何ができるかを考える」

- 第１回WS　水害の危険性を自分の問題として理解する（2006年12月）
- 第２回WS　地域の防災体制を確認し，自助，共助の考えるべきことを明確にする（2007年１月）
- 第３回WS　自助・共助の備え方を考える（2007年４月）

ボート乗船下船・親水体験イベント「葛西臨浜公園へ行こう」（2007年11月）

Ⅱ期：具体的に対策を考える

テーマ「短期的対策を実践に移し，長期的対策を具体的に検討する」

- 第４回WS　ハザードマップの理解と現状の課題の理解（2007年12月）
- 第５回WS　長期的対策の目標像と被災生活イメージの共有（2008年２月）

地域交流・情報交流会「川から街を見る」（2008年３月）

シンポジウム「大規模水害に地域で備える」～『広域ゼロメートル市街地』における地域住民の取り組み～（2008年６月）

新小岩宣言

2008年全国まちづくり会議「2058PLAN」（2008年９月）

Ⅲ期：地域主体の対策の実施・地域内での意識啓発の深化

パネル展示（2009年１月）

第６回WS　ＧＩＳを利用した防災地理情報の作成と共有～住民の，住民による，住民のためのワークショップ～　主催：東新小岩七丁目町会（2009年４月）

第７回WS　身近なところで今後の進めるべき対策を検討する（2009年５月）

2009年全国まちづくり会議「川の恵みと脅威」（2009年９月）

2009年度東京都「地域の底力再生事業」　主催：新小岩北地区連合町会

- 松戸市「２１世紀の森と広場」への避難訓練（2009年11月）
- 西新小岩３丁目公園での防災・炊き出し訓練（2009年11月）

Ⅳ期：長期的対策の具体的な検討

2010年５月よりNPOア！安全・快適街づくり，町会，専門家，葛飾区，東京都，国からなる勉強会を立ち上げ，西新小岩周辺地域をモデルとして，広域ゼロメートル市街地における水害対策の検討を開始しました。

西新小岩周辺地域における治水対策勉強会スタート（2010年５月）

「水害に備える安全・快適まちづくりシンポジウム」～地域力で親水・耐水まちづくりを～（2010年６月）

新小岩行動宣言－１

水害対策ワークショップ（WS）（勉強会）

地域の水害リスクや行政の防災体制の現状を勉強しました。それらを踏まえ，水害発生時に備えた自助・共助のあり方，被災生活のイメージ，水害に強い市街地の目標像を議論・検討してきました。

水と親しみ，水を楽しむ

ときには，水と親しみながら，水害対策や水を活かしたまちづくりについて議論しました。

地域内での普及・広報活動

シンポジウムやパネル展示を行い，水害に関して地域が抱えている問題や取り組み状況を，地域の多くの人に広報してきました。2008年５月のシンポジウムでは，「新小岩宣言」を採択し，地域として大規模水害に備えていくことを確認しました。

新小岩北地区の取り組みを全国へ発信

2008年から全国まちづくり会議に参加し，新小岩北地区の取り組みを全国のまちづくり団体と共有してきました。

地域主導の取り組み ～新小岩北地区 地域の底力～

新小岩北地区において，これまで様々な活動を行ってきましたが，最近では，町会の主催による取り組みが頻繁に行われています。

第６回WS「地理情報システム（GIS）を利用した防災情報の作成と共有」

町会の方が事前に講習を受けた上で，GIS を操作しながら，地域がもつ水害リスクについて町会のメンバーに説明しました。

2009年度 東京都「地域の底力再生事業助成」

新小岩北地区連合町会は，2009年度の助成事業対象団体に採択され，避難訓練，及び，被災生活を想定した炊き出し訓練を実施しました。

新小岩北地区における町会主催の水害対策訓練の事例

新小岩北地区のある町会では，大規模水害を想定した災害時要援護者の避難補助訓練やゴムボートを利用した救出訓練を行っています。

次の行動へ向けて

2010年６月に行ったシンポジウムでは，親水・耐水まちづくりを進めていくための行動を明確にするため，新小岩宣言に続き，新小岩行動宣言－１を採択しました。

新小岩行動宣言－１

1. 新小岩から世界へ向けて活動を広げます。
2. これまでの経験を地域内で深めます。
3. 歴史から，地域から学び，未来に向けて行動します。
4. 地域が主体となってさまざまな連携をしながら進めていきます。

新小岩北地区防災訓練
～地域の底力と世代を超えた活動への期待～

塩崎由人（広域ゼロ研，NPO 会員）

掲載写真撮影者：渡邉喜代美

1．新小岩北地区防災訓練

2009（平成 21）年 11 月 29 日、葛飾区西新小岩 3 丁目公園において、新小岩北地区連合町会の主催により防災訓練を行いました。東京消防庁本田消防署の指導のもと、初期消火、応急救護、通報の訓練とともに、アルファ米とトン汁の炊き出し、釜戸ベンチでの火起し、仮設トイレの組み立ても行いました。これらの一連の訓練の中で、災害時の自分の役割や防災に関するアイデアを考えてもらいました。

写真１　集合時の様子

写真２　人口呼吸の訓練

写真３　消防団の方

写真４　消防署の方

2．防災アイデア募集

「災害が起きたら自分は何ができか」

参加者に「もしも災害が起きたら自分には何ができるでしょうか.」という質問をして、**表１**にある「災害時の役割項目」の中から、自分ができそうな項目を選んで、町会ごとに模造紙の表にシールを貼るという形式で回答してもらいました(**写真５**)。その他にできることやアイデア・意見があれば、自由回答してもら、また、災害時に役立ちそうな炊き出し・非常食に関するアイデアも考えてもらいました。

表１　災害時の役割項目

- 消火に関わる役割
  - 水利，消防資機材が備蓄されている場所を把握している
  - 消防資機材（消火器など）を使って，消火活動を行う
- 救護に関わる役割
  - けが人を避難場所（安全な場所）まで搬送する
  - けが人の手当て等，応急救護を行う
- 情報収集に関わる役割
  - 被災後，被害の状況の把握や地域の安全確認をする
- 要援護者支援に関わる役割
  - 近所に住んでいる要援護者の避難を手助けする
  - 避難所生活の中で要援護者のサポートをする
- その他（自由回答）

①災害時の役割を考える

災害時の役割についての質問の結果は、**表２**のようになりました。
参加者は、災害時に自分たちができることについて議論をしながら回答していました。

近所に住んでいる要援護者の話など、地域の問題が議論されていました。「防災訓練の主体である町会メンバーも高齢化してきており、防災活動には地域の若い人たちの力が必要である」という声も多く聞かれました。

自由回答では、「一人暮らしの高齢者の情報を町会事務所で把握しておきたいが、プライバシーの問題で難しい」、「いつも同じ人しか避難訓練に参加しないので、（実際の災害時）どの程度の人数が避難所に来るかわからない」といった問題点を指摘する意見があり、地域ごとの共助の課題も見出せました。

一方で、「外国人のサポートができる（英語）」、「（避難所生活の中で）将棋の相手をする」、「電気機器の修理ができる」、「無線技術操作ができる」のような回答があり、災害時に趣味や特技を積極的に生かせる人材がいることもわかりました。また、「公園にアロエを植えて怪我の治療に役立てる」など、ユニークなアイデアも提案されました。これこそ地域の底力で、このような発信は貴重です。

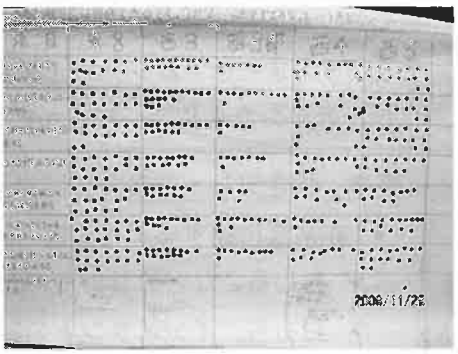


写真５　（男性は青色，女性は赤色のシール）

表２　災害時の役割について　　小さな四角の数字の上段男子、下段女子

役割項目		上小松		アーバン		東5		東7		その他の地域	
消火	水利，消防資機材が備蓄されている場所を把握している	19	12	15	12	14	8	16	11	2	2
			7		3		6		5		0
	消防資機材（消火器など）を使って，消火活動を行う	18	12	14	12	19	13	16	11	2	2
			6		2		6		5		0
救護	けが人を避難場所（安全な場所）まで搬送する	15	11	11	8	16	10	11	9	2	1
			4		3		6		2		1
	けが人の手当て等，応急救護を行う	12	8	8	6	5	4	15	12	3	2
			4		2		1		3		1
収集情報	被災後，被害の状況の把握や地域の安全確認をする	15	10	9	8	14	8	14	10	3	2
			5		1		6		4		1
要援護者支援	近所に住んでいる要援護者の避難を手助けする	17	11	12	8	15	10	16	8	3	1
			6		4		5		8		2
	避難所生活の中で要援護者のサポートをする	14	9	9	5	8	2	12	6	2	1
			5		4		6		6		1

役割項目		東8		西3		西3都		西4		西5	
消火	水利，消防資機材が備蓄されている場所を把握している	16	14	19	15	9	4	17	12	16	9
			2		4		5		5		7
	消防資機材（消火器など）を使って，消火活動を行う	18	18	19	14	11	3	18	13	15	11
			0		5		8		5		4
救護	けが人を避難場所（安全な場所）まで搬送する	16	14	16	14	6	3	10	7	17	12
			2		2		3		3		5
	けが人の手当て等，応急救護を行う	18	15	14	10	8	2	13	8	12	9
			3		4		6		5		3
収集情報	被災後，被害の状況の把握や地域の安全確認をする	18	17	13	11	6	4	12	9	11	7
			1		2		2		3		4
要援護者支援	近所に住んでいる要援護者の避難を手助けする	20	17	13	10	13	4	8	6	15	6
			3		3		9		2		9
	避難所生活の中で要援護者のサポートをする	17	14	14	11	10	4	11	5	15	6
			3		3		6		6		10

②炊き出し・非常食アイデア募集

災害時に役立ちそうな炊き出し・非常食に関するアイデアについては、**表３**にあるような提案が得られました。今回提案されたアイデアは誰もが実践することのできるものです。日頃からの心がけが重要になりそうです。また、アルファ米を試食した参加者からは、「予想以上においしかった」という声が多数聞かれました。近年の非常食は、調理が容易なだけでなく、味も向上してきているようです。

表３　炊き出し・非常食に関するアイデア

- **非常食に関するアイデア**
  - おしるこなどの甘いものがあるといい。
  - おもち、インスタントの味噌汁、ドライフルーツなど、保存のきくものを用意する。
  - おでん
  - 気付け用のもの（アルコール等）
  - 乾パンなどがあるといい。水と塩を常に用意する。
- **アルファ米に関するアイデア**
  - ぽろぽろしているので、プラスティックのスプーンがあるといい。
  - のりがあるといい。おにぎりになるともっと食べやすい。
  - アルファ米に肉を入れる。
  - アルファ米の味がもう少し濃い方がいい。
- **調理に関するアイデア**
  - キャンプ用のコンロを町会で備えていれば、いろいろ使える。

３．まとめ

今回の防災訓練では、参加者に災害時における自分の役割、防災に関するアイデアを考えてもらいました。町会が防災活動を行っていく上での課題、防災や炊き出し・非常食に関するたくさんのアイデアも提示されました。同時に、地域に貢献できる特技を持った人たちがいることもわかりました。問題意識の高い人、様々な特技を持っている人に、今後も継続的に防災活動に取り組んでもらうことが大切です。

また、小さな子ども連れの親たちも参加しており、世代を超えた活動への期待も感じられました。たまたま公園に遊びに来ていた子ども達も防災訓練や炊き出しに興味津々でした。子どもたちも参加できる取り組みは、その親達も巻き込み、防災活動を多世代へと広げていくきっかけとなるかもしれません。

写真６　アルファ米の配膳

写真７　炊き出しの試食の様子

写真８　親子での参加者

平成22年度　当ＮＰＯと葛飾区との協働事業
―１３地区でのパネル展示とアンケート調査の実施―

事務局　増澤一朗

葛飾区は地域の課題をＮＰＯと協働して解決するため「市民活動団体（ＮＰＯ）との協働事業提案制度」を設けており、これに当ＮＰＯが応募し、平成21年7月8日第一次審査を通過、その後の第二次審査を経て同年9月13日に最終選定された。

当NPOは平成20年度にも「ハザードマップの普及支援資料の展示」で最終選定されており、その時は区民の洪水に対する一層の防災意識向上を目的に、葛飾区が平成19年度から全戸配布した荒川、江戸川洪水ハザードマップの更なる普及と、浸透度についてのアンケート調査を葛飾区と共に行った。パネル展示とアンケート調査は、平成20年9月1日から5日間、新小岩北地区センターロビーで、又、平成21年1月7日から5日間、区役所ロビーで開催した。偶々用事で訪れた区民の方々がＮＰＯ会員である町会員の誘いに応じて、パネルを見、説明に耳を傾けられる光景を見て、大変有意義な展示との評価を葛飾区始め立ち寄られた多くの方から頂いた。

過年度のこの実績をもとに、平成22年度の協働事業「洪水ハザードマップに関するアンケート調査」は、葛飾区が行っている「総合的な洪水時の避難対策等の検討」に時を合わせ、2010年8月17日（火）から12月15日（水）まで、葛飾区総合庁舎をはじめ、区内13箇所の地区センターホールを巡回し、洪水をテーマとしたNPO 提供パネル展示とアンケート調査を実施した。NPO会員と協力者の人数は、延190人余で、延べ得時間を考えると大変な活動で、また地域の方々の意見も聞けた。

なお、葛飾区は、今年度から二ヵ年に亘りアンケートを基に「洪水ハザードマップ」の認知度や区外避難に対する区民の考え方等を知り、総合的な洪水時の避難に役立てる対策を検討、作業中である。

パネル展示の現場から

事務局　前田利郎

東金町会場に来られた小学生のときカスリーン台風を経験したという方から、そのときの話を伺っていると「カスリーン台風で桜土手が切れたのは人災」とのびっくりするひと言が。「戦争末期に軍から防空壕を作れとの命令が出た。この辺りは庭を三十センチも掘ると水が出てしまう所だったので地上に盛土し防空壕を作った。盛る場所や土もない家では桜土手に穴を掘った。その残された穴が決壊した場所に沢山あり、それが決壊につながってしまい大惨事になった」ということであった。

また、この方の家には「揚げ舟と呼ばれる舟があり、軒に吊し毎年のように起こる水害に備えていた。しかし空襲対策優先という状況だったので、揚げ舟を防空壕の屋根に使ってしまった。それでカスリーン台風のときに舟が無く、悔しい思いをした。水害対策は大事、今は当時と比べようもないほど危険が増している。パネル展が、家族や、地域で水防対策を話し合う機会になることを期待したい」、など有意義な話をお聞きすることができ「カスリーン台風を経験した者は少くなってしまった。私たちには語り継ぐ責務が」との帰り際に残された言葉には、強い感動を覚えた。

安全・快適まちづくりニュース

水害に備える安全・快適まちづくりシンポジウム ～地域力で親水・耐水まちづくりを～

主催：NPOア！安全・快適街づくり，新小岩北地区連合町会，広域ゼロメートル市街地研究会
共催：葛飾区

平成22年6月27日（日），葛飾区新小岩北地区センターにおいて開催された「水害に備える安全・快適シンポジウム」について報告します．

シンポジウムについて

葛飾区，江戸川区をはじめとする東京の東部には，水面よりも低い地盤に高密，広域の市街地（「広域ゼロメートル市街地」）が形成されています．大規模水害が発生した場合，大きな被害が生じることが予想されます．近年の地球規模の気候変動の影響により，そのリスクは徐々に高まっています．

新小岩北地区では，こうした万が一の状況に備えて，これまで４年間に渡り，町会やNPO，行政，大学の研究者・専門家が協力して，安全・快適まちづくりをテーマに取り組んできました．平成20年5月に，同じく新小岩北地区センターで行ったシンポジウムでは，地域で水害対策に取り組んでいくため，「新小岩宣言」を採択しました．今度のシンポジウムでは，それぞれの立場から，実践活動を紹介し，今後の親水・耐水まちづくりに向けた新しい行動計画を考えました．

シンポジウム当日の様子

◆シンポジウム開会

当日は，約７０名の方が出席しました．新小岩地区からだけでなく，江戸川区からの参加者も見られました．

NPOア！安全・快適まちづくり・石川理事長の開会挨拶で，シンポジウムがスタートしました．

◆葛飾区長挨拶

葛飾区・青木区長から挨拶をいただきました．葛飾区としても，水害に強いまちづくり，水を生かしたまちづくりが進められていることがわかりました．また，行政・NPO・市民が協力して水害対策を進めていくことの重要性を改めて認識しました．

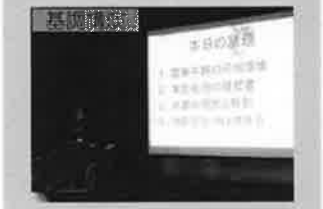
◆基調講演

葛飾区郷土と天文の博物館・橋本学芸員に「川を守る・川と生きる－東京低地の履歴書－」と題して，基調講演をしていただきました．

東京，そして葛飾が，いかに水と結びついた街であるかを知ることができました．今後の親水・耐水まちづくりを考えるうえで，大変参考になる講演でした．

青木区長挨拶

会場の様子


基調講演

◆実践活動・研究紹介

これまで新小岩北地区で行われてきた取り組みの概観について，東京大学・加藤准教授から説明がありました．

次に，新小岩北地区連合町会・鈴木会長が昨年度行った松戸市への避難訓練や炊き出し訓練について，東新小岩七丁目町会・中川会長，同町会市民消火隊・百瀬隊長が東新小岩七丁目町会の自主防災組織，本年度行った中川での水防・救出訓練について説明しました．

NPO・広域ゼロメートル市街地研究会，研究者，葛飾区の取り組みについては，それぞれ日本都市計画家協会・土肥事務局長，首都大学東京・市古助教，葛飾区街づくり計画担当課・情野課長から説明がありました．

◆討論：次の展開へ「新しい行動計画を考える」

基調講演，実践活動・研究紹介の発表者と会場の出席者で意見交換を行いました．

会場からは，これまでの取り組みへの感想や今後の課題についての意見が聞かれました．「この取り組みをより多くの人と共有したい」，「子どもがいる家庭など，若い人たちにどうすれば関心をもってもらえるか」など，熱心な議論が行われました．

新小岩行動宣言－1 “次の行動へ向けて”

本シンポジウムの基調講演，実践活動・研究紹介，討論を通して，今後，地域で親水・耐水まちづくりを進めていくためには，「広げる」，「深める」，「長期的展望に立つ」，「地域主体」の４つがキーポイントであることが確認されました．

そこで，平成20年のシンポジウムで採択した「新小岩宣言」に続き，親水・耐水まちづくりを進めていくための行動を明確にするため，「新小岩行動宣言－１」を会場全体で唱和し，シンポジウムを締めくくりました．

今後，取り組みを進めていく中で，「新小岩行動宣言－２」，「同－３」・・・，と新たな行動が必要になっていくと考えられますが，まずは，地域で「新小岩行動宣言－１」に基づく行動を起していくことが大切です．みなさんで，「親水・耐水まちづくり」に取り組んでいきましょう！

新小岩行動宣言－1

1．「広げる」：新小岩から世界へ向けて活動を広げます．
2．「深める」：これまでの経験を地域内で深めます．
3．「長期的展望に立つ」：歴史から，地域から学び，未来に向けて行動します．
4．「地域主体」：地域が主体となってさまざまな連携をしながら進めていきます．

新小岩行動宣言を唱和する参加者

このニュースに関するお問い合わせは，「NPOア！安全・快適街づくり」までお願いします．
〒124-8535 東京都葛飾区西新小岩３－５－１　FAX：03-3696-7480　ホームページ：http://www.banktown.org/

地域の課題を解決する新しいモデル

NPO・行政・地域が協働する「安全・快適街づくり勉強会」
～新しい公共をさぐる～

勉強会座長　加藤孝明（東京大学生産技術研究所准教授，NPO 理事）

今年度から**「葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会」**が始まりました.「広域ゼロメートル市街地」の安全化へ向けた第一歩と位置づけられます.

水は高い方から低いところへ流れます．安全な市街地にするためには，身近な高台が必要です.しかし現状のしくみ・制度を前提とすると，その実現はそう簡単ではありません.

この勉強会では，西新小岩三丁目をモデル地区として近い将来，高台を確保していく方法について検討をすすめています．この勉強会の最大の特徴は，区役所，東京都，国土交通省荒川下流河川事務所，研究者，NPO，地元連合町会のメンバーといった地域に関わるいろいろな立場の人が参加している点です．行政だけの検討ではない，かといって市民だけでもありません．皆が目の前の地域共通の課題を一緒になって知恵を出し合って考える場になっています．事務局は，NPO と区役所が共同で務めており，他に例をみない形になっています．昨今「新しい公共」という言葉が耳にすることが増えましたが，まさにこの勉強会はその先駆けであり，地域の課題を解決する新しいモデルになるのではないかと感じています.

現在，勉強会では，「高台化のあり方」，「安全快適なコミュニティのあり方」，「まちづくり事業検討」をテーマとする３つの作業部会を設置し，詳細な検討をすすめています.「高台化のあり方」部会では，気候変動へ備えた広域ゼロメートル市街地の将来のあるべき姿を描き出すことを目的に議論を行っています．ここでの議論は，現在葛飾区で検討が進められている都市計画マスタープラン案に反映されています．また更に中長期的な戦略については「(仮称) 気候変動を迎え撃つ安全・快適まちづくりビジョン」としてとりまとめ，社会的にアピールしていくことを予定しています.

「安全快適なコミュニティのあり方」部会では，大規模水害時に命を守り，かつ，地域での生活を継続できるようにするために必要な地域での事前の準備，さらに高台の確保に向けた地域での取り組み方法について議論を深めています．すでに新小岩北地区では 2006 年度からのワークショップや訓練を通して地域力が醸成されているところですが，これを一層発展させていく方法について議論を積み重ねていく予定です.

「まちづくり事業検討」部会では，街をより良くしていくための具体的な方法論について検討しています.

街をより良くしていくためとはいえ，実際に街を変えようとしても多種多様な問題があるため，簡単には実現しません．参加者が知恵を出し合い，現在の問題をひとつひとつ整理し，実現に向けた解決策を探求しています.

勉強会は，2010 年度は 2011 年３月２８日に最終回を終えました。来年度は勉強会の成果をふまえ，次の具体的な行動につなげていくことを予定しています.

「広域ゼロメートル市街地安全安心創出対策推進」緊急アピールをご覧ください。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@@

～連携・協働のまちづくりに向けて～

葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会　作業部会報告

作業部会長　土肥英生（日本都市計画家協会事務局長，NPO 評議員）

１．検討状況

葛飾区西新小岩三丁目周辺地区における安全・快適街づくり勉強会の作業部会は、第１回勉強会（平成２２年５月２１日）を受けて、第１回作業部会（５月２６日）において、論点を整理し、①高台のあり方検討グループ（主査：加藤孝明氏（東京大学））、②安全・快適なコミュニティのあり方検討グループ（主査：市古太郎氏（首都大学東京））、③街づくり事業検討グループ（主査：中村仁氏（明海大学））の三グループに分かれて、検討を進めることとなりました。

その後、第２回作業部会（７月２０日）では佐伯直氏（㈱エックス都市研究所代表取締役）に『川とまちづくり』と題し、魅力ある水辺空間の創造のあり方について、講演いただいた後、各部会に分かれ、委員が様々な資料を持ち寄り、本勉強会の検討作業項目の詰めを行いました。

そして、第３回作業部会では、竹村公太郎氏（首都大学東京客員教授）に、スーパー堤防等の河川とまちづくりの連携事業の歴史的背景及びこれまでの取組みの流れと、「江戸川区における気候変動に適応した治水対策について」等の、近年の治水対策の状況についてご講演いただき、その後、各グループに分かれて検討作業を行い、その成果を各グループより発表しました。

第４回作業部会（１０月２６日）では、各グループの主査より、中間とりまとめの成果をいただき、その後質疑応答を行いました。

２．成果取りまとめに向けて

作業部会では、国、都、区、NPO、専門家、学識者がそれぞれの知見を持ち寄って検討を進めており、半年に満たない期間で質の高い議論と検討成果が出つつあります。
NPO、学識者、行政がこれまでの枠を超えて横の関係の中で、協力して検討を進めていること自体が、作業部会の成果と考えられます。

今後の成果の取りまとめに向けて、市街地整備事業手法の活用等、地域に入っての詳細の調査・調整・検討を行い、誰がこの提案を進めていくのか、そしてその効果は何なのかを具体的に提示していくことが必要となります。資金、人材の包括支援を行う仕組み・制度の提案をすべき時期に来ているようです。

<追録>

勉強会の活動方向の検討
2011・4・28作業部会のまとめ（土肥）

1. 平成22年度の成果と平成23年度以降の展望

（1）平成22年の成果

・葛飾区とNPO法人ア！安全・快適街づくりが協働して開催している『葛飾区西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会』は、1年間に渡る検討を踏まえ、『ゼロメートル市街地包括まちづくりビジョン』（加藤ビジョン）を提案した。

・具体的には、以下の4つの提案を行い、成果として取りまとめを行った。

① 広域ゼロメートル市街地における浸水対型建築物整備の推進による市街地の 耐水性向上
（提案1 ： 浸水対応型建築物整備）

② 広域ゼロメートル市街地における安全避難高台の検討・確保
（提案2 ： 安全避難高台確保）

③ 広域ゼロメートル市街地における住民の命を守る近隣関係継続計画（LCCP）の策定
（提案3 ： 近隣関係継続計画（LCCP））

④ 広域ゼロメートル市街地内の住民,企業,行政、NPO,専門家集団が共に対策を実行する「輪中会議」の立ち上げ
（提案4 ： 輪中会議）

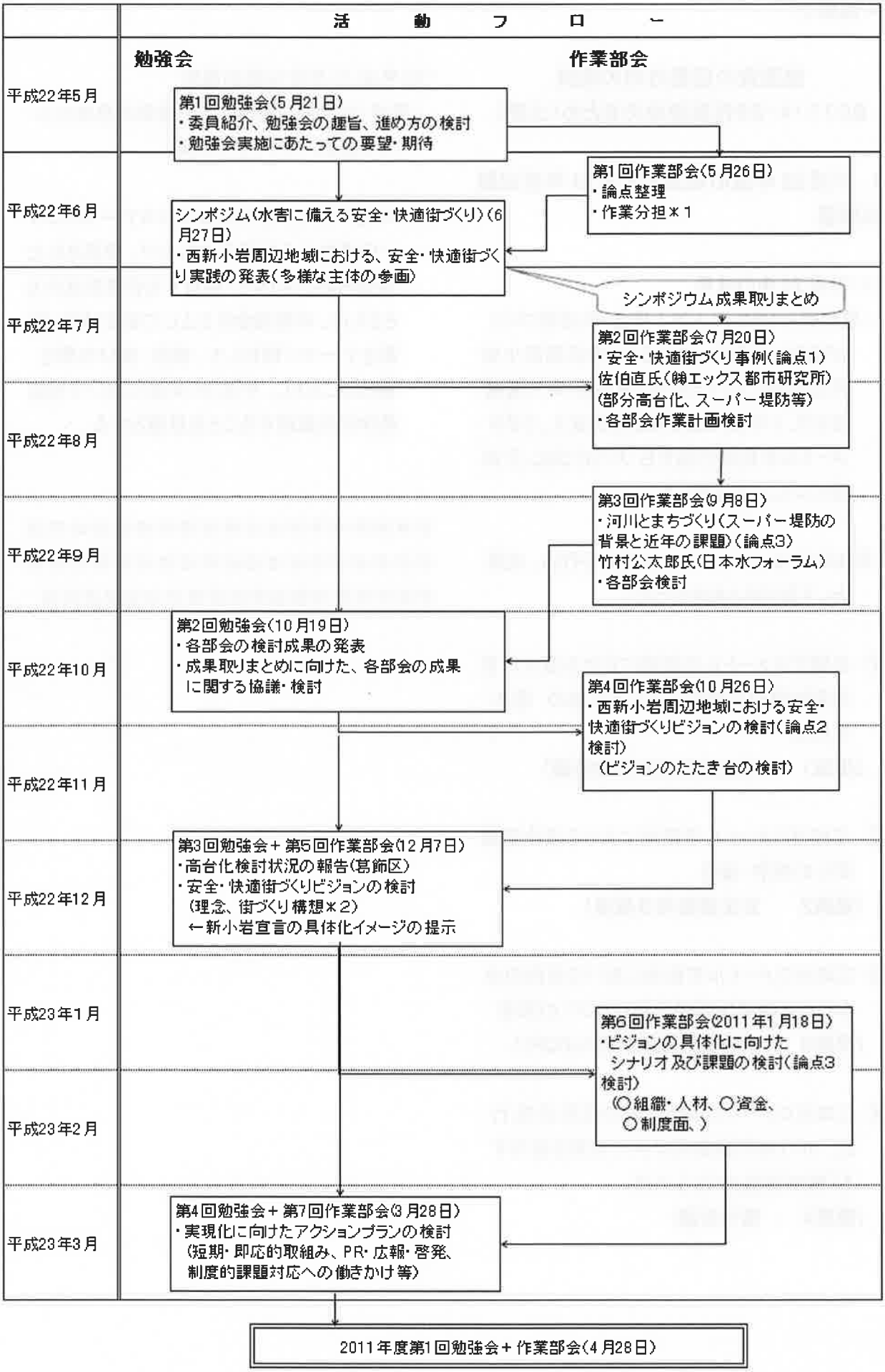
（2）平成23年度以降の展望

・平成23年度以降は、上記提案の具体化に入る新しいステップに入る。

・2カ年をかけて、地域の様々なステークホルダーの参加する組織を立ち上げ、提案された活動内容を具体化・検証する作業を進めるとともに、本勉強会を主として制度研究・提案をテーマに特化して、検討・検討作業を進めることとし、平成25年度において制度具体化を実現することを目標とする。

@@@@@@@@@@@@@@@@@@@
@@@@@@@@@@@@@@@@@@@
@@@@@@@@@@@@@@@@@@

2010年度「葛飾区西新小岩周辺地域における安全・快適街づくり勉強会」活動フロー



３町会長インタビュー

―鈴木町会長・赤巻町会長・中川町会長に聞く―

NPO と町会長さんたちとより具体的な協働は、２００６「水害対策を皆で考える」WS からといえる。連合町会の会長なども務めるお三方に NPO 活動と地域活動の関連などを伺った。（２０１０・１１）

ちょうどその日、事業仕分けニュースでスーパー堤防の事業廃止！！

このニュースに対して**「川と街を一緒に考えてほしい。**“事業”という１パーツしか見ていないやり取りにがっかり！」**「公害による地盤沈下した水面下の街にくらす俺たちの命をどうしてくれる。またも見捨てられたか！」「自助・共助は地域で考える。自分たちでできることはする」**だが気候変動を迎え撃つ**「防災方策は国を挙げての仕事だ」**と厳しい表情でした。

写真：カスリン台風のときの浸水状況（記録から）

具体的な活動なら協働は惜しまない

地域ぐるみでワークショップをしたいと NPO から相談されたときは**「地域で WS ってどんなことをするのだ！」**からはじまったと町会長たちは笑う。

一方町会長たちにとっては、ゼロメートル市街地を考える WS が続いても、その内容をどう町会のみなさんに伝えたものか、初めは難しいものがあった。だが、ボート体験や避難体験や WS を続けているうちに、NPO お任せではだめだ**「自立的に地域のことを考えないとだめだ」**と感覚が変わってきたという。

シンポジウムは、年間の活動の総仕上げ的活動。ここで全体のようすがわかってよい。シンポジウムは参加した地域の方々には好評で、地域で何を考えるべきか**「よくわかったよ！」**とエールがくるそうだ。町会長さんたちは、そうゆう人が増えてくれば地域の活動も活発になろうと思う。

NPO もシンポジウムは一年間の活動のまとめと同時に、参加者で意見を交わし、次に向かう方向を見出そうと考えているのであるから、地域の方々が「わかった」といてくださるのは大変うれしい。

「地域は具体的な活動なら NPO との協働は惜しまない」といい、「NPO の活動の影響もあって地域も少しは変化してきた」と評価くださる。NPO も地域から教わることは多岐にわたるし、地域の活動なくして NPO の活動は生き生きしない。相互に刺激を受けあう連携こそが大切だと共感した。

社会貢献活動を惜しまない町会長たち

町会には目前の課題が多いので、町会長はとにかく多用で多忙である。スケジュール表を拝見すると、１年の半分は地域のために働いている。そんな多忙な町会長にとって NPO とのかかわりについてたずねた。**「この間、NPO との活動の影響もあって地域も変化してきたが、今後も NPO には今のような活動を続けてほしい」**ただ**「知る機会、役員が理解する機会が必要。難しい**

側面は、まず役員が勉強しないと、町会の皆さんには伝えられない」「町会長など地域の役員は、古い体質のままではだめで勉強しないとだめだと日常活動からも思う」。

町会の活動は多岐にわたり、コミュニティの課題は複雑になっている。日常の地域活動だけでも大変だから、安心・快適まちづくりとなると難しい課題だ。

それだけにNPO、地域、専門家、研究者、行政など、活動の連携、継続性が強く希求される。

写真：NPOと町会長さんたちの会議風景

若い世代や子どもたちの参加、国際交流は大賛成

昨年に続き今年も国際交流基金との連携で、東新小岩地域へ、東アジアの研修生がきて、意見交流を行った。地域の皆さんの協力もあって東アジアの研修生たちにも交流は好評である。２０１１年１月２２日の国際交流には上平平井中学校の生徒も参加した。

「地域が自主的にしにくい国際交流などは、実にいい機会なので大いに参加して、地域のことを知らせたいし、広めたい」「国際交流に参加した子どもたちは刺激を受けたようだ」

２０１１年３月６日の中学生のワークショップは「水の恵みと脅威」。上平井中学校の生徒と地域が核なってすすめた。

上平井中学校殿山校長先生の**「地域に助けられて学校の改革もできる」**というように学校と地域はかなり連携している。

子どもたちの放課後支援の**「わくちゃれ」は「寺子屋みたいなもんで宿題もするわスポーツもする」**

写真：WSに参加する中学生

「子どもとは顔見知りになるから“地域のおじさん”になって先生が言いにくいことでも地域のおじさんなら率直に言えることはたくさんある」「防災は世代を超えて連携が必要」などと、若い世代、子どもたちへ地域の課題を伝承する活動はすでに始まっている。

写真：防災訓練風景（写真の１旗が一町会、全体で200人ぐらいが葛飾から市川へ移動してみた）

町会活動は地域のため次世代のためになると思うから継続できる

町会役員の活動は多様である。地域を心配する気持ちが強い。学校と連携する。地

域で子どもとかかわる。地域の子どもたちに親身に声かけする。

防災、防犯、青少年育成、放課後支援のワクチャレ（土日の休みも）、地域の祭り、町会・連合町会・行政連絡会（葛飾区は２４２町会）そして NPO との連携。並みの行政マンではできない多様な仕事だ。責任も重く自前の経費もかかる。しかし**「無償の活動だからこそ、素直にものが言える」**といい、健康であれば終身の仕事と心得る。

地域の変化、自営業の減少が町会役員の後継者不足にもつながっているが**「次世代育てに『育成会』で世代を超えた交流、勉強会もしている」「昔の保守的な体質が変化してきた。勉強しないと地域のリーダーとして不足になる」**という。

地域愛が行動力や地域力となってとっても向上的だ。**「自分育てにもなる」**という前むき思考が３町会長の共通の感性である。

写真：パネル展示会場で説明する中川さん

写真：WS で討論する地域の参加者

写真：WS リーダーをする赤穂さん（前列右から２人目）

写真：WS で GIS を見ながら議論する鈴木さん（前列左から２人目）

2011・3・11東日本大震災

３・１１で、３会長たちによる日常の活動の重要性が浮き彫りになった。被災地の地域のリーダーたちの発言に多く見られるのは人と人のかかわりの大切さや“絆”、日常の活動である。地域を知り尽くした町会長さんたちが、日ごろから積み上げてきたことが、非常時にはきっと役立つに違いない。一方、地域、NPO、研究者、専門家、行政などが共通の課題に連携して向き合うことが希求される。

写真撮影：渡邊喜代美　文責：渡邊喜代美

聞き手：2010・１１　加藤・塩崎・渡邊

２０１０年１１月１日の３町会長取材に、その後の活動写真と２０１１・３・１１を追記した。

第８・９回ワークショップ結果報告
～中学生とともに，防災意識と備えの持続性を考える～

塩崎由人（広域ゼロ研，NPO ア！）

１．第８・９回ワークショップの目的

NPO ア！安全・快適まちづくり，新小岩北地区連合町会，広域ゼロメートル市街地研究会は，2006 年から 2010 年までに，７回のワークショップ，２回のシンポジウム，ボート乗船体験等を行ってきました．これらのイベントを通じて，着実に水害に対する意識，川に対する意識，そして水害への備えは進んできたと思われます．今後，さらにこれを深めるとともに，これまで地域に培われてきた意識と備えを持続させて，安心・快適街づくりへつなげていく必要があると考えられます．

そこで，川の恵みと脅威，大人の知識や知恵を子どもたち（今回は中学生）へ継承し，防災意識を高め，地域としての備えを持続させ，ひいては子どもたちのまちづくりへの参加を促していく第一歩とすることを目的に第８・９回ワークショップを行いました．

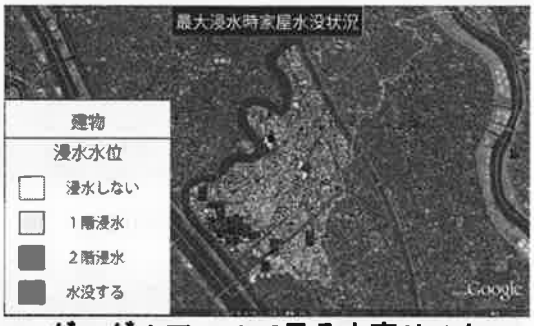
２．上平井中学校訪問

ワークショップに参加する中学生を募集するため，昨年 11 月のある日の夕方，東新小岩７丁目・中川町会長とともに，上平井中学校を訪問しました．中学校の正門を通ると，中川会長と私たちに気がついた中学生たちが挨拶をしに集まり始めました． 中学生たちのしっかりとした挨拶と，その素直なことに驚かされました．その後，殿村校長先生にお会いすると，上平井中の学生たちは地域の商店街でゴミ拾いをするボランティアに参加する等，地域の取り組みに積極的に参加しているという話がありました．中学校と地域が連携して，中学生たちを見守っているということがわかりました．

今回のワークショップの趣旨について説明すると，殿村校長先生からは，「中学生たちが地域のことを知り，地域について考えることはとても良いことなので，是非とも参加させていただきたい」と返事をいただき，中学生のワークショップへの参加が決定しました．

３．グーグルアース

今回の一連のワークショップでは，地域の水害リスクを理解するために，グーグルアースという新たな道具を導入しました．グーグルアースとは，衛星写真を利用したインターネット上の地図で，世界中のあらゆる場所を見ることができます．コンピューターを使っている人であれば，簡単に操作できることが特徴の一つです．今回は，グーグルアースの地図に，新小岩地域の地盤の高さ，水害発生時の浸水深，浸水状況，避難所の場所等の情報を重ね合わせて，様々な情報を閲覧しながら議論をすることができるようにしました．



グーグルアースで見る水害リスク

４．第８回ワークショップ

大人が子供たち（中学生）に地域の水害リスクについて教えるためには，大人たちも地域の水害リスクについて復習し，

グーグルアースの操作方法を習得する必要があります．そこで，第８回ワークショップ（2011 年 2 月 20 日）では，町会からの参加者を中心に，まずは大人たちでグーグルアースの操作方法を学び，地域の水害リスクを再確認しました．東京大学・加藤准教授からは，市街地が浸水した場合，電気・ガス・上下水道といったライフラインは使用不可能となる等，水害発生時の状況についての説明もありました．

参加者からは，「グーグルアースを使うことで，リアリティを持って水害リスクを理解することができた」という感想が多く聞かれました．

５．第９回ワークショップ

第９回ワークショップには，上平井中学校から〇〇名の中学生が参加しました．最初に，中川会長が，地域と川・水との関わりの歴史について，昔の風景の写真を使いながら説明しました．カスリーン台風による水害の話，新小岩は戦後までは田畑が広がり，用水路があったという話等，大変興味深い話で，参加者全員が熱心に聞き入りました．

次に，地域の大人と中学生が一緒にグーグルアースを使いながら，大人が地域の水害リスクを中学生に教えていきました．中学生は，学校の地理授業でグーグルアースを使っているということもあって，すぐに操作方法を習得してしまい，大人たちを驚かせました．中学生たちは，自分たちの住んでいる街で水害が起きると大変なことになると知り，驚いたようでしたが，真剣な表情で大人たちの説明を聞いていました．

大人から説明を受ける中学生

自分たちの街の歴史や水害リスクを知った上で，「将来，自分たちの街をどうしたいか」ということをテーマに，グループごとに議論しました．

中学生からは，「展望台を地域につくり，水害のときは避難できるようにする」，「川の水をきれいにして，水に浮かぶ街をつくる」等，ユニークなアイデアがたくさん出され，議論が盛り上がりました．最後に，全体で提案されたアイデアを共有しました．中学生が参加し，楽しく自由な発想をすることで，前向きな議論につながりました．

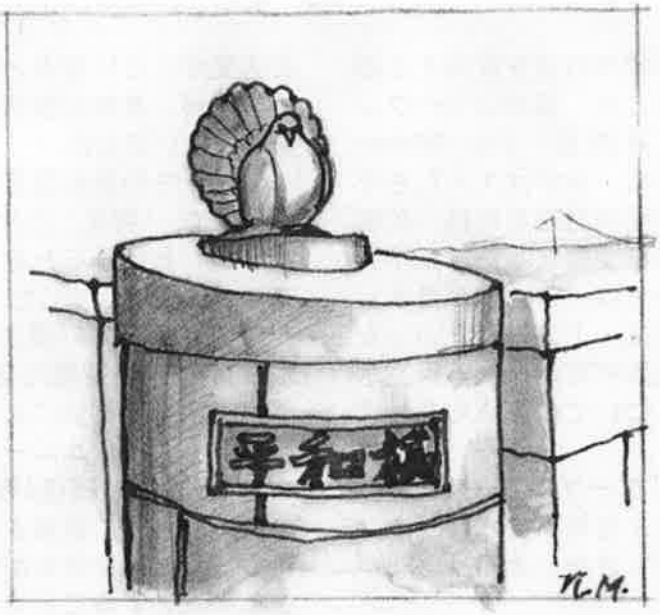
アイデアを発表する中学生

６．最後に

今回の一連のワークショップでは，グーグルアースという新たな道具も使い，大人たちから中学生へ地域に関する知識や知恵を伝えることができました．

今回のワークショップは，中学生に，自分ができることについて考えてもらうきっかけになったのではないでしょうか．今年 3 月の東日本大震災の直後，今回のワークショップに参加した一人の中学生の呼びかけで，上平井中学校の中学生たちが，毎朝，自発的に正門前で募金活動を行っていたそうです．

今後も各自が地域のためにできることを考え，地域全体の防災意識を向上するための取り組みを継続的に行っていくことが求められます．



編集後記

私たちNPOは、２００２（平成１４）年から８年間にわたり、ゼロメートル市街地である葛飾区において水害の脅威と安全・快適まちづくりをテーマに活動を続けてきました。２０１０年度はシンポジウム、長期にわたる移動パネル展、中学生も参加のワークショップ、全国フォーラム参加、国際交流、地盤沈下の記憶「井戸の保存」、全国まちづくり会議参加、そしてNPOとしては画期的なNPO、地域、行政、専門家、研究者によるネット型の勉強会、勉強会の知見を盛り込んだ“緊急アピール”など実に創造的に、真摯に、課題に取り組んできました。

２０１１・３・１１日本の災害の歴史上最大規模の東日本大災害は依然余震が続き、復旧、復興活動はまだ緒についたばかりですが、低地帯に住む私たちに多くの教訓を与えています。ひとつの行動として、東北地方太平洋沖地震を受けた『ゼロメートル市街地安全安心創出対策推進』緊急アピールを出しました。これからの安全・安心まちづくりの具体的な活動を示唆するものです。

今後も、地域とともに、当事者視点で、既成の概念に拘束されない闊達な活動を心がけて次の世代へ繋げていきたいと思います。皆様の積極的参加を希求します。

表紙の書は石川金治理事長。表紙、奥付のスケッチは評議員の正宗量子さんです。

なお、２０１０総集編（１７号）に載せ切らなかった寄稿が１０編余あります。追って１８号へ収録していきます。記事を書いてくださった皆様ご了解ください。ご協力ありがとうございました。

２０１１・６・８　総集編編集　渡邉喜代美

特定非営利活動法人

「NPO ア！安全・快適街づくり」

〒124－8535 東京都葛飾区西新小岩三丁目5番1号

電話／FAX　03－3696－7480

ホームページ：http://www.banktown.org/